令和3年度 第4回 荒尾市観光振興計画策定等委員会 議事録要旨

日 時：令和３年９月27日（月） 午前９時30分～午前11時00分
場 所：荒尾市役所 11号会議室
出席者：荒尾市観光振興計画策定等委員会委員16名（別紙出席者名簿のとおり）
事務局：産業振興課課長 岩下和隆、同課長補佐兼観光推進室室長 江口雅臣、
同副主任 平山裕也、同副主任 西卓也
ジャパンインターナショナル総合研究所 松崎良祐、井戸湧大
オブザーバー：荒尾市観光協会事務局長 徳村美佳

1. 開会

事務局が、開会のあいさつと資料の確認を行った。

2. 委員長挨拶

山代委員長が、あいさつを行った。

・会議前に放映していた観光PR動画で改めて荒尾市の魅力を感じられたと思う。
・これまでの会議でいただいた貴重なご意見を踏まえ、観光振興計画の案がまとまったためお諮りする。
・今月末で緊急事態宣言は解除されるようだが、熊本県はワクチン接種率が全国で上位である。これは喜ばしいことで、安心して観光に来てもらえるよう役立てたい。

3. 報告

（1）前回の委員会の結果について

事務局が、資料1に基づき、前回の荒尾市観光振興計画策定等委員会における協議の経過について報告した。

（2）来訪者アンケート調査の結果について

事務局が、資料2に基づき、来訪者アンケート調査の結果について報告した。

4. 議事

（1）パブリックコメントの結果及び対応方針について
（2）第３期荒尾市観光振興計画（仮称）及び令和３年度実施計画について

事務局が、資料３及び資料4-1、4-2、4-3に基づき説明した。内容については承認された。意見等は以下のとおり。

【意見等】

○ テレビ局と連携した事業について、具体的にはどのような内容か。

事務局 今年度はテレビ熊本と連携してプロモーション事業を進めている。「夏」「秋」「グルメ」の３つをテーマにPR動画を制作するという事業であるが、この事業に派生して、同局の番組である「若っ人ランド」や「かたらんね」内で特集を組んでもらうことなどが実施できている。10月には小代焼のPRを行う予定で、時期に合わせた番組制作で連携できたらと考えている。

○　広告や番組制作を通じて、ぜひ荒尾市に来たいと思ってもらえるような PR ができればよいと思う。旅番組などでも、どのように特色を出して荒尾市に行きたいと思ってもらえるかが重要だと思う。

(3)第 3 期荒尾市観光振興計画(仮称)の推進体制等について

事務局が、資料 5-1 及び資料 5-2 に基づき説明した。内容については承認された。意見等は以下のとおり。

【意見等】

○　荒尾市タクシー協会で「おもやいタクシー」を運営しているが、現状は観光利用でなく市民の日常の移動手段として利用されるケースが多い。2 台で運行しているが、多数の観光客が訪れることになれば 2 台では足りなくなると思うので、増車したり、先日の会議で意見が出たように TukTuk を導入して喜んでもらうことも検討できたらよい。
荒尾市観光協会ではドライブインシアターの実施も予定しているので、見に来ていただけたらと思う。ナイトタイムコンテンツとしての事業性の検証も含め行っていきたい。

○　パブリックコメントを多数いただき、注目度が高いことがうかがえる。計画に反映できたものもあり良かった。今後も、市民に対し丁寧なフィードバックを継続いただきたい。
また、委員各位の活発な意見やそれに応える事務局の努力により素晴らしい計画ができたと思っている。特に、豊富なデータが収集できたのは良かったことであり、これを各団体でもぜひ活用いただきたいと思う。併せて、本計画に基づき、各団体で何ができそうかをそれぞれの内部で考えてもらい、出された意見についてはぜひ共有をしていただきたい。それらを基に、今後、企画部会でも議論を深めていけたらと思う。
企画部会は当面は観光関連の事業者で進めていくことになるが、市民の方にもぜひ情報発信で協力をいただきたいと考えている。部会のあり方については、当初の形に限定することなく、随時改善しながら動きやすくプラスになるような仕組みを作っていけるとよいと思う。企画部会の運営としては、地域における取組みを教えてもらいながら、地域外からの目線も踏まえ、他地域での取組みなどについて情報提供ができたらよいと考えている。

5. 講話 「観光客の増加につなげるための効果的な情報発信のあり方について」

熊本県観光連盟で地域連携・情報発信アドバイザーを務める久保尭之氏より、講話を行った。概要は以下のとおり。

・情報発信は目的ではなく手段である。「観光振興の意義」に掲げる 3 つの目的のために行うという意識が大切である。
・荒尾市の認知度はおそらく熊本県では 100%であるが、目的地として荒尾市をどれだけ思いついてもらえるかが重要である。
・地域の観光収入は、「観光客数×消費単価×域内調達率」と計算できる。観光客数においては、認知率と行動率を上げること、消費単価については「ついで消費」をどれだけ上げられるかが重要である。
・認知を増やすに当たっては、自前の情報発信だけでは難しい。マスメディアや口コミなど、人にどれだけ伝

えてもらえるかが重要で、「情報発生力」を高めるための工夫が必要だと考える。発信しやすい広報素材を用意することもその1つである。

・来訪者数を増やす上で、行きたい理由をつくり、行けない理由を減らすという考え方がある。例えば万田坑に当てはめると、世界文化遺産という情報だけでなく、具体的にどのような学びが得られるのか、体験ができるのかを伝えることで「行きたい理由」に繋げることができるのではないかと考えている。また、行けない理由を減らす点について、例えばマジャク釣りに当てはめると、どこで実施できるのかや漁業権に関する情報、トイレ、駐車場、満潮・干潮についての情報が現状出ていないので、この不安を消してあげることで行けない理由を減らすことになる。

・観光消費額を増やすための方法としては、例えば夕焼けがきれいであれば、夕焼けの時間まで待ちたくなるものであり、消費の機会が増えると考えられる。「旅ナカ」での情報提供を充実させて「ついで消費」を促すことが重要である。「旅ナカ」での情報発信に当たっては、飲食店や宿泊施設等、接客する人が相互に観光案内ができる体制をつくることが望ましく、従業員向けのツアーなども有効である。

6. その他

事務局が、報告事項を行った。内容は以下のとおり。

・議事録等を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認について協力をいただきたい。

・9 月中、テレビ熊本の番組で天気予報に合わせて荒尾の風景が流れるのでご覧いただきたい。

・10 月から小代焼の Web 展示会を行っているのでご覧いただきたい。

7. 閉会

事務局が閉会を宣言した。